



神奈川県

KANAGAWA

平成27年度 神奈川県委託事業

若者のための働き方を考える交流会



「仕事と家庭の両立」を前提とした 若者へのキャリア支援について

— 仕事と家庭の両立を考えるセミナー&交流会 —
実施内容から



はじめに

神奈川県では、少子化問題への取組の1つとして、これから子育て世代となる若者を対象に、「若者のための働き方を考える交流会 ～仕事と家庭の両立を考えるセミナー&交流会～」を実施しました。

このセミナーの受講者には、仕事と家庭を両立している社会人（両立実践者）との交流会を通じて、ワーク・ライフ・バランス（以下WLB）や仕事上の責任を果たすと同時に充実したライフスタイルを実践する方法を学んでいただき、仕事と子育て等との両立が可能であることを実感していただきました。

そこで、本セミナーを実施する中で出された若者の考えや意見をまとめ、仕事や生活に対する若者の考え方が明らかになるよう冊子を作成しました。各企業における人材採用や人材育成・定着のためのWLB推進の取組に加え、各校における学生に対する就職指導等のご参考にできれば幸いです。

若者のための働き方を考える交流会

仕事と家庭の両立を考えるセミナー & 交流会

目的 働き始めたばかりの20代の多くは仕事に重点を置いて取り組んでいる状況であるが、一方では、近い将来、子育て世代に突入することが想定される。そこで、子育て世代となる前のタイミングで、自らのライフスタイルを考える機会を提供し、仕事と育児の両立実践者と交流することで、働きつつ子育てをすることができるという実感を得てもらう。

対象者 20代の学生及び就業者
(神奈川県に在住、在勤、または在学)

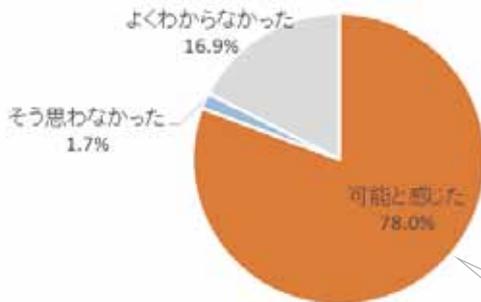


セミナープログラム 日程：平成27年11月～平成28年1月（全3回）

	内 容	カリキュラム
一部	・セミナー ・個人ワーク ・グループワーク	○オリエンテーション（セミナーの目的） 1. 仕事と家庭を両立するために 2. WLBについて 3. キャリアをデザインする
二部	・両立実践者との交流会	○両立実践者の紹介 1. 全体意見交流会 2. 男女別・男女混合グループによる交流会 3. 両立実践者、ファシリテーターからのメッセージ
三部	・イベント (両立のためのお役立ち情報の提供)	※各回によってイベント内容を変更 ○時間管理術セミナー ○パパママ体験&わくわく育児セミナー ○家事も仕事も効率アップセミナー

セミナーアンケートのまとめ

◆ ご自身にとって、仕事と子育ての両立が可能だと感じましたか



セミナーを受けた78%の受講者が、「仕事と子育ての両立が可能」と感じており、その理由としては以下のようなコメントがあげられています。

- 実際に両立している先輩方の話や体験談を聞いて「私にもできる」と感じたから。
- 「こうあるべき!」という先入観が無くなった。
- 周りの力を借りることも大事と気付けた。
- 不安はあるが、「とりあえずやってみる」というアドバイスをもらった。
- 会社の制度も整ってきていることが分かった。



◆ 勤務先・就職先に、何を求めますか（複数選択）



「何を優先して就職先を選ぶか」「今の勤務先に、どのような要素が充実することを望むか」というアンケートに対し回答の内容は以下のとおりでした。

- ① やりがい・・・45.8%
- ② 給料・・・40.7%
- ③ 子育てとの両立・・・39.0%
- ④ 人間関係・・・33.9%

仕事のやりがいや処遇だけではなく、「子育てとの両立」といったWLBにも関心が高いことがわかります。

◆ ワークとライフのバランスを取り、充実した人生を送るために何が重要だと考えますか？

企業・組織は？
・ 制度の導入、充実
・ 制度利用に対する理解
・ 多様性の受容
・ 協力体制
・ 働き方の見直し
・ 短時間で効率よく働き、その働き方を評価すること
・ WLBの実践
・ 上司の理解

自分自身は？
・ 自分がどうしたいかを考える
・ 目標設定、将来のビジョン
・ 主体性
・ 柔軟な考え方
・ 思いやり
・ スキルアップ
・ 周りとの関係性の構築
・ 感謝すること

社会は？
・ 制度
・ 多様性へ理解
・ 環境の整備
・ 寛容な社会、思いやり
・ 施設（保育所など）の充実
・ みんなで子育てするという意識



私たち、こんな悩みを持っています。先輩！教えてください！

結婚について

Q. 結婚を決めるタイミングやきっかけがわかりません。付き合っている人はいるが、結婚を切り出すタイミングが難しいです。

A. 私の場合、お互い30歳になり、付き合いが4年目というタイミングで自然に決めた。性格や波長も合い、人生を共に歩みたいと思える相手だと思えた。相手の結婚観を普段から聞いておくといい。雰囲気作りや環境を自分で作ってみては？
〔36歳 男性 IT企業勤務〕

Q. 就職先が転勤が多い会社のため、結婚できるか不安です。

A. 転勤族や遠距離の付き合いから結婚したカップルも多い。働き方や将来のことなど早めに話しておくとうい。
〔36歳 男性 IT企業勤務〕

Q. 将来結婚はしたいとは思っているが、まだピンとこないし、相手もいません。

A. 日頃「良い人いたら紹介して」くらいの声かけをして、周りの方の人脈も利用するのも悪くはないと思う。
〔51歳 女性 NPO法人勤務〕

Q. やりたいこともあり、いつ結婚したらいいかわからない。

A. まずはやりたいことがあるのなら、それを頑張れば良いと思う。周りにも積極的にアピールすると道が開ける可能性が高くなる。結婚も同じ。「結婚しなくてはいけない」という決まりもないので、自分が何をしたいのかを考えてみて。〔52歳 女性 IT企業勤務〕



両立について

Q. 毎日残業で忙しい。結婚や育児との両立ができる気がしない。

A. 今はスキルの蓄積時期と捉え、がんばるのも良いと思う。環境が変わったら、働き方をえられるよう、周囲ともコミュニケーションが必要。〔52歳 女性 IT企業勤務〕

Q. これからの就職先が、変則勤務前提の仕事なので両立は難しいと思う。

A. 将来は家庭だけでなく、いろいろな理由で時間制約がある人が増え、働き方はもっと多様化する。今からあきらめず、まずは仕事をしっかりしていくのが良いと思う。
〔52歳 女性 IT企業勤務〕

Q. 両立が本当にできるのか、不安で仕方が無い。想像と実際ではどのように違ったか、またどのように両立しているのか教えてください。

A. とにかく子供が生まれるまでは、全くその後の生活が想像できなかった。実際は、毎日時間に追われる生活を送っている。だけど、できることとできないことがはっきりするので、割り切って、完璧主義を目指さないことも大事。また、働きながら子育てを一人で抱え込むことは想像以上に大変。夫の協力が必要なのはもちろん、周りに協力を求める準備もしておくとうい。〔37歳 女性 商社勤務〕

Q. 仕事に関して、家庭との両立で工夫していることはありますか。

A. 仕事復帰前に1日のタイムスケジュールを作成し、段取りよく進められるように工夫している。子どもの急な体調不良による呼び出し等があった場合でも、対応可能となるように、日ごろからチームメンバーに情報共有しておく。それでも、無理だと思ったら、誰か（夫、母など）に頼る。
〔32歳 女性 情報通信企業勤務〕

二部の交流会では、仕事と家庭（子育て）とを両立している先輩と、「両立の工夫」や「夫婦の役割分担」などをテーマに交流会を行いました。また、20代の若者からの質問や相談も多数挙がり、両立実践者からは実体験に基づいたアドバイスをもらいました。その一部をご紹介します。

夫婦での役割分担について

Q. 夫婦の家事育児の分担についてはどうしていますか？どうやって決めたんですか？

A. 生まれる前や妻の仕事復帰前等、随時話し合いの場を設けた。でも状況は変わっていくので、夫婦で自分たちにあったスタイルをみつけていくことが大事（対話が大事）。今は、ざっくりとは分担を決めているが、その時々で状況で、時間的・体力的に余裕のある方が、家事分担の比率を高めるようにしている。スマホのカレンダーのアプリを使ってお互いのスケジュール等、情報共有している。
〔夫婦で参加：夫32歳 コンサルティング企業勤務、妻32歳 情報通信企業勤務〕

A. 決めごとを作ると窮屈になるし、お互い調子の良い時も悪い時もあるので、自主参加型で役割分担を明確にしていない。ただ、相手のしてくれることについて、やり方などに口を出さないよう気をつけている。
〔51歳 女性 NPO法人勤務〕

Q. どうやったら相手（夫）に家事や育児の協力をしてもらえるのでしょうか。

A. パートナーにいかに気持ちよく協力してもらえるかが大事。特に感謝の言葉かけなど。
〔47歳 男性 専門商社勤務〕

Q. 夫婦で家事のやり方で衝突することはあるか？

A. 毎日のようにあるが、ケンカで終わらせずにその都度改善に努めるようにしている。その結果、以前に比べて認め合いや感謝の気持ちが大きくなっている。
〔36歳 男性 IT企業勤務〕

会社・仕事について

Q. 職場は育休復帰者の受入体制が整っておらず、時短の制度もない。このまま復帰してよいものか、パート勤務に切り替えるか、思い切って職場を変えるか悩んでいます。

A. そのまま正社員での復帰をおすすめする。これまで積み上げてきた信用も含めた実績のある職場で復帰するのと、新しい環境で初めての子育てと、両方をゼロから積み上げるのでは全く違う。職場に体制が整っていないなら、自分のやりようで整えていける可能性がある。むしろチャンスと考え、まずはやってみて、どうしても無理ならそれからパートへの切り替えや新しい職場を検討するののも一つの方法では。〔51歳 女性 NPO法人勤務〕

Q. 男性の育休取得に対して、取りやすい会社と取りにくい会社はあるか？

A. 上司の理解や職場の雰囲気や育休は取得しやすくなる。社会的には男性による子育てが必要という見方になってきた。2010年代は男性の育児参加が活発になり、これからさらに取得しやすくなっていくはず。ただし、会社では仕事の成果を出すことが大事。その時に理解してもらえるよう、今は会社に貢献しておくことを考えよう。
〔38歳 男性 通信企業勤務〕

Q. 短時間勤務などで気を付けることはありますか？

A. 当初は、仕事が終わらないと、同僚に仕事をお願いすることになるので、常に気を遣って業務をしていましたが、仕事はギブ&テイクなので、その分、フォローしてくれている人へ自分自身もサポートするような対応をしています。また、フォローし合える仲間を作ることも大事。〔37歳 女性 商社勤務〕

自身のキャリアについて

Q. 就職して3年経ったが、今まで将来のことやキャリアを考えてこなかった。急に言われても考えられない。

A. キャリアは毎日考えるものでもないもので、時々こういう機会を活用して振り返れば良いと思う。年齢や職位で限定されるものではないので、いろいろな人の話を聞くだけでもいいのでは。〔52歳 女性 IT企業勤務〕

最後に

セミナーの受講アンケートや、交流会で両立実践者へ投げかけられた質問等から見た20代の若者の考えを基に、今後の課題を以下の通りにまとめました。若者を社会へ送り出す各学校の皆様、その若者を受け入れる組織（企業や団体など）の皆様にとって、今後の様々な取り組みの参考になれば幸いです。

【大学・専門学校】若者を送り出す学校の皆様へ

更なるキャリア教育の充実を！

1. 就職先での定着と活躍に向けたキャリア教育を実施する

受講アンケートでは、「就職先・勤務先に何を求めますか？」の問いに対し、「やりがい」、「給料」、「子育てとの両立」という回答順になりました。「子育てとの両立がしやすい制度の整った組織」を選ぶ傾向はますます高まりつつあるようです。一方、組織にとって最優先は仕事上の成果です。両立しながらも成果を上げる人材育成のためのキャリア教育が求められます。

2. 中長期視点からのキャリア教育を実施する

「（自分自身にとって）ワークとライフのバランスを取り、充実した人生を送るために何が必要だと考えますか？」の問いに対し、「自分がどうしたいかを考える」「目標設定、将来のビジョン」が大切であるとの回答が多く出されました。本セミナーにおいて、今後のキャリア&ライフプランを考える機会を提供したことで、中長期の視点から考えることの重要性に気づいたようです。学生はどうしても目の前の就職活動に意識が集中し、就職することが目的になりがちです。就職後も充実した生活を送ることができるよう、早期からのキャリア教育が必要です。



仕事と家庭の両立に向けての更なる情報提供、必要知識の提供を！

1. 両立実践者と接する機会を提供する

学生は一般的に組織で働いた経験が少なく、仕事と家庭を両立している生活をイメージすることが難しいために、将来に向けて漠然とした不安を抱きがちです。本セミナーにおいて両立実践者から「両立するためのコツや工夫」を聞くことで、一定の不安は解消され「両立できる」と感じた参加者が多かったようです。教員や職員の皆様の中にも、仕事と家庭を両立し人生を充実させている方は多くいらっしゃると思います。早い機会に、そのような方と接する機会が必要です。

2. 時間管理の重要性を認識する機会を提供する

受講アンケートでは、「（企業にとって）ワークとライフのバランスを取り、充実した人生を送るために何が必要だと考えますか？」の問いに対し、「働き方の見直し」や「短時間で効率よく働き、その働き方を評価すること」との回答が多く出されました。時間という資源は有限です。時間あたりの生産性が議論されるようになり、ただただ長く働き続けて残業するよりも、短時間で成果をあげることを是とする価値観に移りつつあります。学生時代から主体的に時間管理を行い、効率や生産性を意識することは、ワークとライフを充実させるために必要です。より早い時期からの習慣づけが必要です。

【企業・団体】若者を受け入れる組織の皆様へ

仕事と家庭の両立が可能な組織運営を！

1. 仕事と家庭の両立が当たり前の組織風土を醸成する

男性・女性にかかわらず、「仕事と家庭の両立ができる企業で働きたい」という若者の割合が増えています。若い男性の価値観も変わり、「育児に積極的にかかわりたい」、「夫婦共働きを前提として、お互いによく仕事と家庭を両立したい」等の意見が高まっています。そのように考えている若者を採用し、活躍させていくには、女性だけではなく、男性も育児や家事に参加することが当たり前という組織風土を構築することが求められます。

2. 長時間労働を是とする価値観を変え、誰もが両立できるように働き方改革を推進する

仕事と家庭の両立を考えた際に、「仕事が忙しいと無理ではないか」という声が多く上がりました。長時間労働を前提とした働き方では両立は困難です。今後は、限られた時間で成果をあげていく仕組みを構築し、誰もが両立できる仕事環境を整備していくことが求められます。本セミナーに参加して、「両立するためには時間管理が重要である」ということを強く認識した参加者が多く見られました。『時間生産性』を意識した、働き方改革が必要です。



漠然とした不安を払しょくするための取り組みを！

1. ロールモデル（両立実践者）との交流の場を提供する

これから仕事と家庭を両立しようとしている若者は、「将来、本当に両立できるのだろうか」という漠然とした不安に、常に悩まされているようです。そこで、仕事と家庭の両立をしながら活躍している先輩職員と交流し体験談を聞く機会を提供することで、それらの不安を払しょくすることが求められます。夫婦での役割分担や両立のコツなどの経験談を聞くことによって、漠然とした不安は払しょくされ、「自分でも両立できそう」と両立への自信につながります。組織内で多様なロールモデルとの交流の機会を設けることが、両立の実現に有効であると考えられます。

2. 中長期的視野からキャリア研修を実施する

仕事を始めたばかりの若者はどうしても、目前の仕事に追われ、その日を過ごすことに精いっぱい、キャリアの捉え方が近視眼的になりがちです。今後、仕事と家庭を両立しながらキャリアアップをしていくためには、20代のうちから「将来どうなりたいのか」、「仕事と家庭を両立するために、今から何をしていくべきか」などを考え、将来に備えておく必要があります。様々なライフイベントを迎える前に、今後のキャリア&ライフについて考える機会を提供することで、両立に向けた力強い第一歩を踏み出すことができると考えられます。



<制作・編集>

株式会社キャリアネットワーク（受託事業者）

〒107-0062 東京都港区南青山6-8-6



産業労働局労働部労政福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話 (045) 210-5744